

テキストコミュニケーションを用いた国語科授業の開発

—異学年交流を取り入れた授業開発—

西村 尚久・黒田 裕太郎・坂田 豊・杉川 千草・山元 隆春・佐々木 勇

Abstract: Learners living in an advanced information society are familiar with SNS and other media in which verbal information occupies a major position, and misunderstandings and deteriorating human relationships due to communication via SNS have become commonplace problems. In this study, we examined the effects of "text communication," in which learners use only text to communicate. As a result, we can conclude that learners are more likely to engage in expressive language activities and express their opinions freely when they use "text communication".

1. はじめに

2021年、GIGA スクール構想の下に、児童・生徒向けに一人一台の端末と高速大容量の通信ネットワークが整備された。ICTを活用した授業が全国的に取り組みられ、既に多くの実践が報告されている。ICTを活用した授業実践では、従来隣や同じ班にいる他の学習者と交流することが中心であった学習者を、教室や校舎の違いを越えて交流させるという学習活動が可能になったと考えることができる。

そのような状況の中で、稿者は、「テキストコミュニケーション」の能力を育む必要性を感じている。本研究における「テキストコミュニケーション」とは、「相手が見えない中で行われる、文字のみのやりとりを用いたコミュニケーション」を指している。高度情報社会を生きる学習者の身近には、SNSをはじめとした、言語情報が主たる位置を占めているメディアが存在しており、SNSを介したやりとりで誤解が生じたり、人間関係が悪化したりすることが、日常的なトラブルを生み出す状況がある。

以上のような状況をふまえ、国語科の授業を考えたとき、テキストコミュニケーションを用いた実践の開発を行う必要性を見出すことができる。国語科における「対話的な学び」が対象とする対話相手は、「教室内の他者」、「授業者」、

「(教科書などの)テキスト」などが考えられるが、本研究が対象としているのは、「他者」である。前述したように、ICTを活用した実践では、従来の「教室内」という制約にとらわれずに「他者」と、対話することができる。学習者は、「他者」の意見に接する際、日常生活における人間関係などから「これは〇〇が述べた意見」という情報に左右されやすい。そのような情報に関係なく、それぞれの意見を平等に扱い、また、一つ一つの言葉にこだわった表現活動を促すという点に本研究で目指すテキストコミュニケーションを用いた国語科授業を開発する意義がある。

2. 研究の目的・方法

本研究において具体的に明らかにしたい点は、テキストコミュニケーションを用いた実践の有効性である。有効性を検証するために、第一段階として、同学年内の学習者を対象としたテキストコミュニケーションを用いた意見交流を核とした実践を開発、実践した(西村ら2021)。ここでの成果と課題を整理しつつ、第二段階として、異学年交流を取り入れた実践を新たに開発する。本稿は、第二段階で新たに開発した実践の具体をまとめ、成果と課題を分析したものである。第一段階では、小学校6年生、中学

Takahisa Nishimura, Yutaro Kuroda, Yutaka Sakata, Chigusa Sugikawa, Takaharu Yamamoto, Isamu Sasaki :

Development of a Japanese language class using text communication : Classroom Development Incorporating Cross-Grade Interaction

校2・3年生の学習者を対象に、それぞれの学年内でテキストコミュニケーションを取り入れた実践を行った。各実践の中で共通した成果として挙げられたのは、テキストコミュニケーションにおける「匿名性」が学習者の心理的負担を軽減し、発言しやすい環境を作ることができるという点である。また、「テキスト」によるコミュニケーションなので、誤解のないように、各自が表現内容を推敲する必要に迫られる状況を作り出したといった点も成果の一つと言って良い。

課題としては、文章を読み深めるための議論を学年全体でするために、通常よりも多くの情報を処理する必要があったため、学習者への負担が大きすぎたということが挙げられる。

よって、第二段階の実践では、第一段階の成果より、テキストコミュニケーションを用いた実践での「匿名性」を確保しつつ、テキストコミュニケーションにおいて、学習者に与える情報量を意図的に減らしていく必要があると考えた。

3. 単元の構想

第二段階の実践は中学校1年生と小学校5年生の異学年交流を取り入れた授業を構想した。稿者が勤務する広島大学附属三原学校園は、幼稚園、小・中学校を併設する12年間一貫教育の学校園である。12年間の学年区分として、幼小接続期(幼稚園, 小学1・2年生), 転換期(小学3・4年生), 小中接続期(小学校5・6年生, 中学校1年生), 義務教育完成期(中学校2・3年生)の4つを設定しており、本実践が対象としているのは小中接続期の学習者である。

本稿では、中学校での単元「わたしの大好き」を中心に取り上げることとする。

また、第二段階の実践は「書くこと」に関わる内容で行った。なぜなら、異学年・異校種でテキストコミュニケーションを実践しようとした場合、共通した課題を設定することが望ましく、「書くこと」領域の学習指導であれば、異学年・異校種に共通した課題の設定が容易であると判断したためである。

単元の課題として着目したのは「200字作文」(金子, 2018)である。「200字作文」とは、200字原稿用紙に200字ちょうどで文章を作成するという、短作文の学習活動である。200字というのは小学生にも書きやすく、交流も容易に行えると判断した。また、作文のテーマは「わたしの大好き」というものに設定した。「大好き」というテーマであれば小学生や中学生という校種に関係なく取り組めると考えた。

本単元は小学校と中学校において以下の表1のように構想, 実践された。

表に示したとおり、本単元では小学生の文章に対し、中学生がアドバイスをするという構成になっている。

中学生は、自分たちのこれまでの文章を参考にループリックを作成し、評価の観点を明確にした上で、自己評価へ取り組み、小学生の文章にアドバイスをすることで、ループリックをより意識した状態で自分の文章を修正するという活動を行うことになる。

また、単元の最後には、小中学生の文章を匿名で並べ、相互評価(投票・コメントする)活動を実施した。

表1 単元の展開

| 小学校5年生 | | 中学校1年生 | |
|--------------------------|---------------------------|--------|---|
| | | 第一次 | 「わたしの大好き」というテーマで200字作文を作成 |
| 第一次 | 中学1年生の200字作文を参考に200字作文を作成 | 第二次 | これまで作成してきた作文を参考に「良い文章」のループリックを作成し、文章を自己評価 |
| | | 第三次 | 作成したループリックを用いて小学校5年生の文章にアドバイス |
| 第二次 | 中学生のアドバイスを受けて文章を修正 | | |
| 第三次 | 学習内容の振り返り | 第四次 | 前回の自己評価をふまえて第一次で作成した自分の文章を修正 |
| | | 第五次 | 自己評価と学習内容の振り返り |
| 相互評価(匿名で文章を並べ、投票・コメントする) | | | |

4. 授業の実際

ここからは、実践がどのように進んでいったのか具体を紹介する。

第一次では、「わたしの大好物」というテーマで200字作文を作成した。以下に2人の学習者の作品を紹介する。

秋だ、あなともお一つ、いかでしようか？

まじや、なにか。そんなアップルパイを食欲の

心臓に作る。人を味蔵にする食べ物。すて

る。自然と口角が上がり、暖かい太陽の様に

色は、っ！秋！レシロウ感でレハナリ。食バ

バるバきた。あのこんがり焼き目。っ！た茶

パイが、私は大好きなうごある。絶対に、食

したリンゴが私の口に添う。そんなアップル

口に入ると、パリパリのほろシヤクツと

アップルパイの良い香りが体をめぐる。ていく。

図1 学習者Aの文章

題目（私の人生はアップルパイでまじや

あ、た、これだ。駄菓子屋に行くと、私は他の物に目も向けずに、カルパスのある隅の方へ行く。マスクの中で笑みがこぼれる。あるだけの数を両手いっぱいに取りレジへ向かう。母は体に悪いと言うが、そんな事はどうでもいい。世の中のほとんどの美味レリ物は、体に悪いのだから。一回食べてしまおうとやめられぬ。カルパス中毒になっ、てしまおう。数十本も買ったのに気づけば二日でなくなる。こんな食べ物はこの世にこれ一つだけだと思え。

題目（私の生活に欠かせない食べ物

図2 学習者Bの文章

第二次では、これまでの作成してきた文章を参考に、中学生が考える「良い文章」のループリックを作成した。ループリックの観点として、使用されている「言葉」、「題材」、「話の構成」、「表現技法」という4つを授業者から提示した。その観点に関わって「良い文章」の条件になりうるキーワードを Google フォームで集約し、テキストマイニングなどを用いながら文章化した。作成されたループリックは以下の表2のようになった。

表2 中学生が作成したループリック

| | 使用されている「言葉」について | 使用されている「題材」について | 使用されている「話の構成」について | 使用されている「表現技法」について |
|----------------|----------------------------------|--------------------------------|----------------------------|---|
| A (十分満足) レベル | 読み手を意識して、伝わりやすい言葉を選び、簡潔に表現できている。 | 興味を引くような題材を用いて、読者の共感を得ようとしている。 | 問いかける形式で、読者が読みやすい構成になっている。 | 比喩などを上手に利用することによって、文章に表現されたものをイメージすることができるようになっている。 |
| B (おおむね満足) レベル | 伝わりやすい言葉を選んで表現できている。 | 親しみやすい題材を用いて文章を書いている。 | 問いかける形式で文章が書かれている。 | 比喩などを使用できているが、適切な使用ができておらず、伝わりにくい部分がある。 |
| C (努力を要する) レベル | 伝わりにくい言葉が用いられている。 | 伝わりにくい題材を用いて文章を書いている。 | 文章にまとまりがなく、内容が伝わりにくい。 | 比喩などの表現技法を使用することができていない。 |

ルーブリックを用いて行った学習者A, Bの自己評価は以下ようになった。(図3, 4)

なお, ここで設定されたルーブリックは, 実践を重ねる中で更新していくものであると考えている。例えば, 「話の構成」に関わるルーブリックには, A(十分満足), B(おおむね満足)レベルとして, 「問いかける形式で」という文言が用いられているが, 「良い文章」が全て「問いかける形式で」書かれるわけではない。このような実践を繰り返す中で学習者は「良い文章」とは何かを考え, ルーブリックを修正していくことになるのである。

第三次では, 小学5年生の文章に対して, アドバイスをするという活動を行った。小学生に対するアドバイスには責任が伴うため, 学習者は集中して小学生の作品を分析していた。中学生は2~3人程度の小学生に対してアドバイスをを行った。

| | 使用されている「言葉」について | 使用されている「題材」について | 使用されている「話の構成」について | 使用されている「表現技法」について |
|-----------------|---|---------------------------------|-----------------------------|--|
| A(十分満足)レベル | 読み手を意識して, 伝わりやすい言葉を選び, 簡潔に表現できている。 | 興味を引くような題材を用いて, 読者の共感を得ようとしている。 | 問いかける形式で, 読者が読みやすい構成になっている。 | 比喩などを上手に利用することによって, 文章に表現されたものをイメージすることができるようになっている。 |
| B(おおむね満足)レベル | 伝わりやすい言葉を選んで表現できている。 | 読みやすい題材を用いて文章を書いている。 | 問いかける形式で文章が書かれている。 | 比喩などを使用できているが, 適切な使用ができておらず, 伝わりにくい部分がある。 |
| C(努力を要する)レベル | 伝わりにくい言葉が用いられている。 | 伝わりにくい題材を用いて文章を書いている。 | 文章にまとまりがなく, 内容が伝わりにくい。 | 比喩などの表現技法を使用することができていない。 |
| 自分の作品を自己評価してみよう | B レベル | B レベル | B レベル | B レベル |
| 自分の作品の改善点を分析しよう | <p>使用されている「言葉」について 伝わりやすい言葉だとは思うが, もう少し簡単に, 簡潔に「...」と書くおなじものが使われると良いと思う。</p> <p>使用されている「題材」について 誰もが知っている題材だが, 興味をひき, 共感を得るおなじものではない。</p> <p>使用されている「話の構成」について 問いかける形式は使われているが, 読者が読みにくいかもしれない。(言葉づかいは文のまとまり)</p> <p>使用されている「表現技法」について 比喩の表現は使われているが, 簡潔な時に納得のいく比喩表現ができていない。(適切ではない)。(伝わりにくい)。</p> | | | |

図3 学習者Aの自己評価ワークシート

| | 使用されている「言葉」について | 使用されている「題材」について | 使用されている「話の構成」について | 使用されている「表現技法」について |
|-----------------|---|---------------------------------|-----------------------------|--|
| A(十分満足)レベル | 読み手を意識して, 伝わりやすい言葉を選び, 簡潔に表現できている。 | 興味を引くような題材を用いて, 読者の共感を得ようとしている。 | 問いかける形式で, 読者が読みやすい構成になっている。 | 比喩などを上手に利用することによって, 文章に表現されたものをイメージすることができるようになっている。 |
| B(おおむね満足)レベル | 伝わりやすい言葉を選んで表現できている。 | 読みやすい題材を用いて文章を書いている。 | 問いかける形式で文章が書かれている。 | 比喩などを使用できているが, 適切な使用ができておらず, 伝わりにくい部分がある。 |
| C(努力を要する)レベル | 伝わりにくい言葉が用いられている。 | 伝わりにくい題材を用いて文章を書いている。 | 文章にまとまりがなく, 内容が伝わりにくい。 | 比喩などの表現技法を使用することができていない。 |
| 自分の作品を自己評価してみよう | B レベル | B レベル | C レベル | A レベル |
| 自分の作品の改善点を分析しよう | <p>使用されている「言葉」について 読み手を意識できていない, 伝わりやすい言葉でかきこぼしてきた。</p> <p>使用されている「題材」について みんなに親しみやすいが, 興味を引けるかはあまいかと思う。</p> <p>使用されている「話の構成」について 問いかける文章になっていない。</p> <p>使用されている「表現技法」について みんなが文章にかかれたものをイメージできるように工夫をすることができた。</p> | | | |

図4 学習者Bの自己評価ワークシート

| | 使用されている「言葉」について | 使用されている「題材」について | 使用されている「話の構成」について | 使用されている「表現技法」について |
|-------------------|--|--------------------------------|----------------------------|---|
| A(十分満足)レベル | 読み手を意識して、伝わりやすい言葉を選び、簡潔に表現できている。 | 興味を引くような題材を用いて、読者の共感を得ようとしている。 | 問いかける形式で、読者が読みやすい構成になっている。 | 比喩などを上手に利用することによって、文章に表現されたものをイメージすることができるようになっている。 |
| B(おおむね満足)レベル | 伝わりやすい言葉を選んで表現できている。 | 親しみやすい題材を用いて文章を書いている。 | 問いかける形式で文章が書かれている。 | 比喩などを使用できているが、適切な使用ができておらず、伝わりにくい部分がある。 |
| C(努力を要する)レベル | 伝わりにくい言葉が用いられている。 | 伝わりにくい題材を用いて文章を書いている。 | 文章にまとまりがなく、内容が伝わりにくい。 | 比喩などの表現技法を使用することができていない。 |
| 自分の作品を自己評価してみよう | A レベル | B レベル | B レベル | B レベル |
| 自分の作品の改善点を分析しよう | | | | |
| 使用されている「言葉」について | 前回と比べると、伝わりやすい言葉を意識して使っていると思う。 | | | |
| 使用されている「題材」について | 題材は分かりやすいが、興味をひくようなものではないと思う。 | | | |
| 使用されている「話の構成」について | 前回より、問いかける文章が使われていない。使われているとしても、もう少し分かりやすくと思う。 | | | |
| 使用されている「表現技法」について | 比喩表現があまり使われておらず、少し伝わりにくいかと思う。 | | | |

図7 学習者Aの自己評価ワークシート(2度目)

| | 使用されている「言葉」について | 使用されている「題材」について | 使用されている「話の構成」について | 使用されている「表現技法」について |
|-------------------|----------------------------------|--------------------------------|----------------------------|---|
| A(十分満足)レベル | 読み手を意識して、伝わりやすい言葉を選び、簡潔に表現できている。 | 興味を引くような題材を用いて、読者の共感を得ようとしている。 | 問いかける形式で、読者が読みやすい構成になっている。 | 比喩などを上手に利用することによって、文章に表現されたものをイメージすることができるようになっている。 |
| B(おおむね満足)レベル | 伝わりやすい言葉を選んで表現できている。 | 親しみやすい題材を用いて文章を書いている。 | 問いかける形式で文章が書かれている。 | 比喩などを使用できているが、適切な使用ができておらず、伝わりにくい部分がある。 |
| C(努力を要する)レベル | 伝わりにくい言葉が用いられている。 | 伝わりにくい題材を用いて文章を書いている。 | 文章にまとまりがなく、内容が伝わりにくい。 | 比喩などの表現技法を使用することができていない。 |
| 自分の作品を自己評価してみよう | A レベル | B レベル | A レベル | B レベル |
| 自分の作品の改善点を分析しよう | | | | |
| 使用されている「言葉」について | 伝わりやすい言葉を使う、読み手を意識できた。 | | | |
| 使用されている「題材」について | みんなが知っている題材を用いることが出来た。 | | | |
| 使用されている「話の構成」について | 問いかける形式で文章が分けた。 | | | |
| 使用されている「表現技法」について | 比喩を使った。 | | | |

図8 学習者Bの自己評価ワークシート(2度目)

5. 成果と課題

ここからは本実践の成果と課題について、学習者へ行ったアンケートの結果をもとに考察する。アンケートは、以下の5つの項目について5件法で回答させた。

- ①「書くこと」が得意かどうか
 - ②テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は楽しいかどうか
 - ③テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は難しいか
 - ④テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は国語の力が身に付くか
 - ⑤今後もテキストコミュニケーションを用いた国語科の授業を受けてみたいかどうか
- 小学生54名、中学生75名のアンケート結果は以下ようになった。

文章を書くことは得意である。(5段階で評価してください)
54件の回答

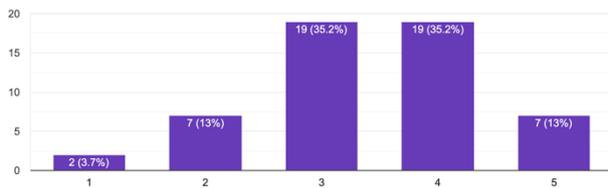


図9 ①に関する小学生の回答

文章を書くことは得意である。(5段階で評価してください)
75件の回答

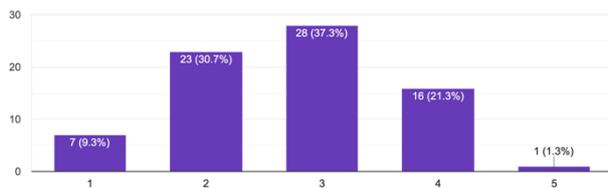


図10 ①に関する中学生の回答

テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は楽しい。(5段階で評価してください)
54件の回答

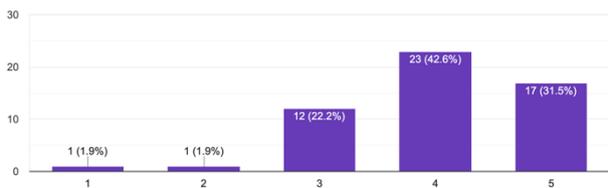


図11 ②に関する小学生の回答

テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は楽しい。(5段階で評価してください)
75件の回答

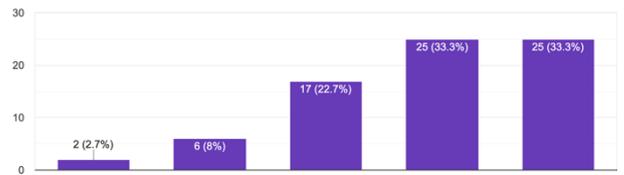


図12 ②に関する中学生の回答

①、②の結果より、「書くこと」に対して苦手意識を持っている生徒は一定数（小学校16.7%，中学校40%）いるものの、テキストコミュニケーションを用いた学習に対して、楽しさを感じている生徒が多数いることがわかった。回答理由に関する自由記述から、「書くこと」が苦手ではあるが、「授業が楽しい」と感じている生徒の記述を取り上げたい。

書いた人が誰か知らずに文章を読むとその人が本当に文章が上手なんだなあとはっきりわかるからです。また、自分に対しての率直な意見も知ることができて前の自分よりも文章の質が上がります。一番はじめに書いた文章と比べると自分の成長がわかってとても嬉しいです。そして、いい文章としてみんなに評価されたときはとてもうれしくてこれからも頑張ろうと自分の励みになります。（中学生）

また、「書くこと」に苦手意識を持っている生徒の中で、授業を「楽しくない」と捉えている生徒の意見としては、以下のようなものがあった。

少し難しかった。相手と直接話したほうが私は学習しやすい。（中学生）

次に③の質問項目に関する回答を見ていく。

テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は難しい。(5段階で評価してください)
54件の回答

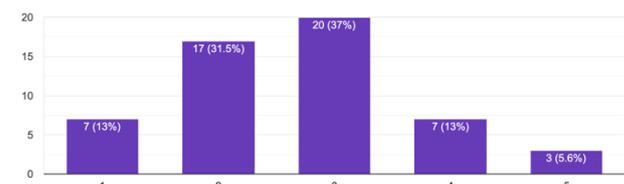


図13 ③に関する小学生の回答

テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業は難しい。(5段階で評価してください)
75件の回答

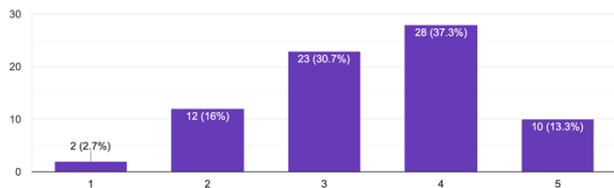


図 14 ③に関する中学生の回答

③に関して、本単元では、中学生から小学生へのアドバイスが行われているだけである。よって、メッセージを送る側の中学生は「難しい」と感じている割合が高くなっていると分析した。実際に、中学生の学習者には以下のような記述が見られた。

僕は文章を書くことが苦手なので、文章だけで会話するのはむずかしいと感じた。

(中学生)

④の質問項目に関する回答は以下のようになった。

テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業...の力が身に付く。(5段階で評価してください)
54件の回答

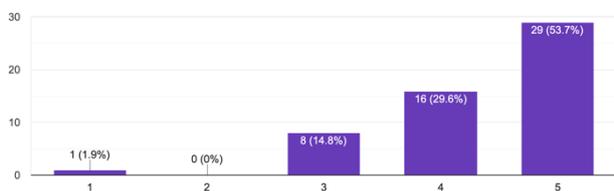


図 15 ④に関する小学生の回答

テキストコミュニケーションを用いた国語科の授業...の力が身に付く。(5段階で評価してください)
75件の回答

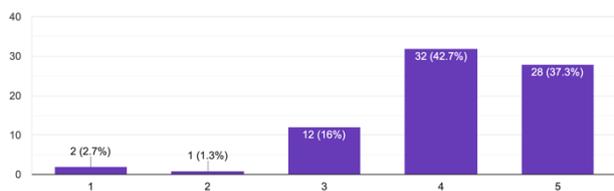


図 16 ④に関する中学生の回答

④に関しては、多くの学習者が「国語の力が身に付く」と評価していることがわかった。その回答理由に関する自由記述は以下のようなものになっている。

相手がわからないから、人によって仲の良さ

だったりの関係で評価が変わることがなく、良い文章を選ぶことができ、それについて分析したりする活動を通して、本当に良い文章を選ぶ力が身につくし、その文章の工夫を取り入れて、自分に活かす事もできるのでとても良いと思う。
(中学生)

相手がどんな人かどんな顔をしている人なのかもわからないのを見ると、ネットに似ている点があり、相手に思いやりを持って文章を書くのは今後の社会で誹謗中傷をなくすための第一歩になるのかなと思った。

(中学生)

テキストのみのコミュニケーションが、学習者の言葉へのこだわりを生み出すこと、現実社会の問題につながっていることを自覚している様子がうかがえる。

⑤の質問項目に関する回答は以下のようになった。

今後もテキストコミュニケーションを用いた国語科...を受けてみたい。(5段階で評価してください)
54件の回答

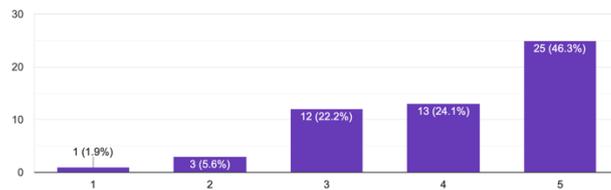


図 17 ⑤に関する小学生の回答

今後もテキストコミュニケーションを用いた国語科...を受けてみたい。(5段階で評価してください)
75件の回答

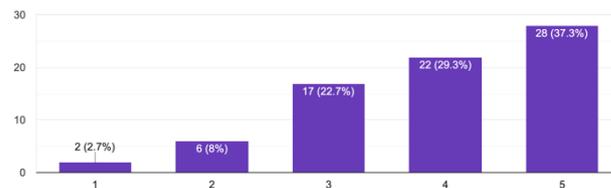


図 18 ⑤に関する中学生の回答

⑤に関しても、④と同様に肯定的な回答が多くみられた。「匿名だからこそ」生まれる学びを指摘する声が多く挙げられている。

この授業では、名前を隠すことで誰かに僕が書いたということがわからないので安心して授業に集中できるし、その分いろんな人の

作文を見てこんな表現方法が有るのかと気づけるので、とても楽しかったです。

(小学生)

最初はどの言葉を使うか迷い、自分にあう言葉のチョイスがなかなかできなくて少し表現が具象的で内容が相手にすぐわかったけど、7年生さん(稿者注:本校校園では中学1年生を7年生としている)のアドバイスをもとに新しく200字作文を書くと、前よりより一層ちゅうしょう的になったと思う。

(小学生)

上記のアンケート結果から「テキストコミュニケーションを用いた国語科授業」に関して、以下の3点が成果として挙げられる。

- (1) 学習者の心理的負担の軽減
- (2) 表現にこだわった言語活動の展開
- (3) コミュニケーション場面における他者意識の醸成

(1)に関わって、「テキストコミュニケーション」を用いた学習において、「発言しやすい雰囲気ができる」といった感想は多くの学習者が述べている。

(2)に関わって、「相手が分からないからこそ、表現に着目した学習になった」と述べる学習者が多く見られた。

(3)に関わって、前述の学習者の「相手がどんな人かどんな顔をしている人なのかもわからないのを考えると、ネットに似ている点があり、相手に思いやりを持って文章を書くのは今後の社会で誹謗中傷をなくすための第一歩になるのかなと思った。」という記述は、SNS時代を生きる学習者にとって、「テキストコミュニケーション」を用いた学習の必要性を端的に示しているものである。

一方で、本稿で実践された「テキストコミュニケーションを用いた国語科授業」の課題として、以下の点を上げることができるだろう。

(1) 本単元でのテキストは、手書きによるものであり、「記述された文字以外の情報」を完全に排除したものを扱っていない点

(2) 本単元では、双方向でのコミュニケーションを扱うことができていない点

(1)に関わって、本単元では、「200字作文」を学習課題としたために、手書きのものを交流することになっている。今後、Google クラブルームを活用した実践を行い、検証を行っていく。

(2)に関わって、本単元は、異学年間での「テキストコミュニケーション」を実施した初めての事例であり、今後、それぞれの学年の中で「良い文章」に関わるループリックを作成した上で、双方向のコミュニケーションが成立するような実践を構想していこうと考えている。

「テキストコミュニケーション」を用いた国語科授業については、学習者の抱える今日的な課題の一つである SNS 上でのコミュニケーション不全を解消する可能性をそなえる一つのアプローチであり、今後もさらなる検討を進めていきたい。

引用(参考)文献

- 1) 金子泰子(2018)『国語教師が教える二百字作文練習』溪水社
- 2) 西村尚久・黒田裕太郎・坂田豊(2021)「テキストコミュニケーションを用いた国語科授業の開発」『国語教育研究 第六十二号』広島大学国語教育会, pp.27-37.
- 3) 野中潤編著(2019)『学びの質を高める! ICTで変える国語授業基礎スキル&活用ガイドブック』明治図書
- 4) 堀田龍也・為田裕行・稲垣忠・佐藤靖泰・安藤明伸(2020)『学校アップデート情報化に対応した整備のための手引き』さくら社
- 5) 『国語教育』編集部編(2020)『with コロナの国語授業づくり』明治図書